

# ***KANKI MIXER***

KM/KMC型

**取扱説明書**

**関西機械工業 株式会社**

京都市山科区小野西浦38-49


TEL075-571-9331

FAX075-571-2721

この度は、KANKI MIXERをお買い上げ頂きありがとうございました。  
本機は 溶液量50ℓ～2000ℓ程度の小容量を攪拌するために開発したものです。  
従来の攪拌機では最小の機種をご利用頂いても、重量が重く回転数も中速になって  
しまい又、取付架台で苦心された事と思います。  
KANKI MIXERは、この様な問題点を解決しました。

- 超軽量 3.5～16.0kg (25～400w)
- 取付簡単 JIS 5K・10K 65AフランジでOK  
用途に合わせて回転数を選べる
- 電圧 100v、200vいずれも可 (異電圧にも対応可)  
\*その他詳細はカタログをご参照下さい。

尚 ご使用に際しましては、この取扱説明書をご精読の上、正しいお取扱いをお願い致します。

 **〈安全に関するご注意〉**  
正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に必ず「取扱説明書」をお読みください。

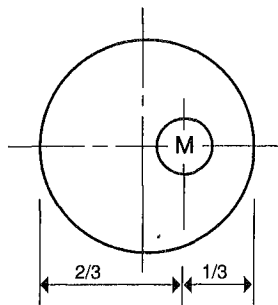
## 1 現品の到着

攪拌機がお手元に到着しましたら、まず次の事をご確認下さい。

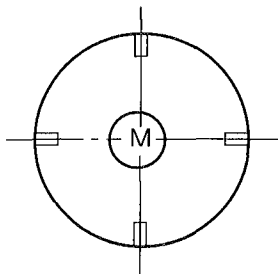
- ① 御注文の機種、規格、寸法、個数が正しいかどうかをご確認下さい。
- ② 運送途中に於て各部分 特に本体、攪拌軸、羽根の員数とそれらに破損なきかをよくご確認下さい。
- ③ 弊社では製品に対し、出荷検査に万全を期しておりますが、輸送途中に於て攪拌機の各部のボルト・ナット等が緩んでいないか点検して下さい。  
万一、異常や不備がありましたら直ちに弊社又は販売店・代理店にお知らせ下さい。
- ④ ゴム、その他のライニングした攪拌シャフト (羽根付) はキズ、メクレ、打痕等異常が無いかを確認して下さい。そして絶対傷を付けない為にも取付作業直前に開梱されます様をお願いします。

## 2 据えつけ要領

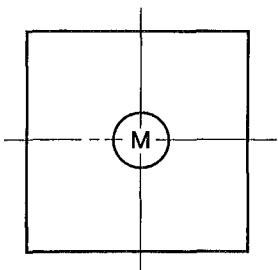
【1】 タンクにより取付け位置を決めて下さい。



①丸タンクで邪魔板が無い場合はタンク直径の $\frac{1}{3}$ 位に取付けて下さい。

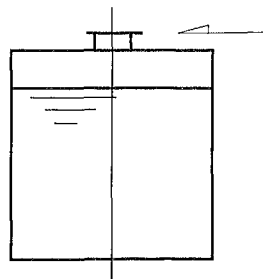


②丸タンクで邪魔板が有る場合はタンクの中心に取付けて下さい。

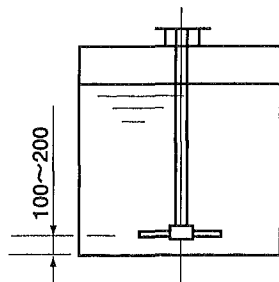


③角タンクの場合は、タンクの中心に取付けて下さい。

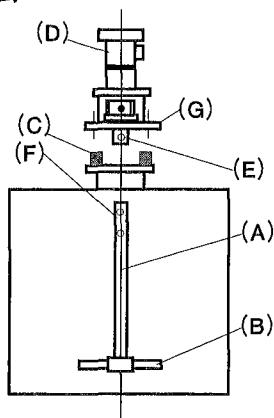
【2】 取付け面は、水平になる様して下さい。水平でない場合、クレームの原因となります。



【3】 羽根の位置はタンク底部より100~200m/mになる様にして下さい。(機種により異なります)



【4】 取付け方法



- ① 攪拌シャフト (A) に羽根 (B) を取り付けて下さい。(六角レンチ又はスパナにて)  
取付後タンク内に入れておいて下さい。
- ② タンク取付面に角材等 (C) を置き攪拌機本体 (D) を仮置きします。
- ③ 次に攪拌シャフト (A) を (E) 部に当たるまで差し込み (F) のセット穴2ヶ所を合わせて取付けして下さい (六角レンチにて)
- ④ 最後に仮置き角材等 (C) を取り除き、取付面に本体を置き (G) のボルト穴で取付けて下さい。(4ヶ所)

【5】 攪拌シャフトの振れの確認

据付作業は以上で完了しておりますが、攪拌機をタンクに固定後、攪拌シャフトの振れの確認を行う必要があります。先づ確認方法は減速機の最頂部のファンカバーを外し手廻しして、目測で振れの異常がないか確認しておいて下さい。(機種によりファンの無いものがありますので、瞬時通電にてご確認下さい。)

ゴムライニング等の場合は(攪拌翼を溶接して固定してあります)特に注意が必要です。

### 3 運転準備

- ① タンクに確実に固定されているかご確認の上、水張りをして下さい。回転方向が表示してありますので、入力電源の結線は上部より見て右回り(時計方向)になる様結線して下さい。
- ② 単相電源の場合、必ず附属のコンデンサーをご使用下さい。(コンデンサー内蔵機種もあります)

### 4 運転中の注意事項

- ① 運転準備完了後電源を入れて下さい。モーター・本体・シャフト等に異常音が無いか、振動が無いかご確認下さい。

異常が無ければ、ご使用薬品等を入れて、正常運転を開始して下さい。そして液の攪拌能力をご確認下さい。



- ② インダクションモーター（E種絶縁）を使用しておりますのでモーターケース表面温度はかなり高くなり、場合によっては90℃近くになることがあります。異常ではありません。絶対にモーター部及び出力軸部付近は素手で触らないで下さい。又、回転部分には手や物を入れないで下さい。

## 5 保守点検

本機は、グリス又はオイル注入の必要ありません。  
モーター及び減速機の保守は別紙取説をご参照下さい。

## 6 故障の原因と対策（一般的）

	故障の状態と原因	処理（応急）対策
攪拌が強すぎる	<ul style="list-style-type: none"> <li>攪拌流動が強過ぎる</li> <li>内容液が槽よりあふれる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小さい攪拌翼に変える。</li> <li>攪拌翼を逆に付けてないか確認する。</li> </ul>
攪拌性能がよくない	<ul style="list-style-type: none"> <li>攪拌翼を逆に取付けた</li> <li>攪拌翼が脱落している</li> <li>シャフトの回転方向が逆</li> <li>攪拌容量が多過ぎる</li> <li>あわが発生する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい位置に直す。</li> <li>攪拌翼を取り付けてボルトを充分締める。</li> <li>電気結線を変える。</li> <li>仕込み量を減らす。</li> <li>上部の攪拌翼を外す。（2段羽根のみ）</li> </ul>
攪拌シャフトが振れる	<ul style="list-style-type: none"> <li>シャフトが曲がったがタンクに傷がつかなかった。液上下で空転した</li> <li>空気を多量に吸い込んでいる</li> <li>攪拌力のバランスがとれてない</li> <li>大きな固形物を投入した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新品のシャフトと交換。空転しない様に液上下の液位の制限に注意 又はフロートスイッチを付ける。</li> <li>上部攪拌翼を外す。水位を上げる。（2段羽根のみ）</li> <li>軸のセット凹穴に攪拌翼のボルトが正しく合ってるか確認する。</li> <li>小さい固形物に変更し投入する。</li> </ul>
振動が発生する	<ul style="list-style-type: none"> <li>締付固定ナットがゆるんでいる</li> <li>取付架台が弱い</li> <li>シャフトが振れている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボルトナットを締め直す。</li> <li>架台を補強する。</li> <li>振れの原因を調査する。</li> </ul>
ギヤー減速機が異常音を発する	<ul style="list-style-type: none"> <li>軸受の損傷・焼付き</li> <li>ギヤーの歯が欠けている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>軸受を新品と交換する。（フレーム一式となります）</li> <li>新品のギヤーと交換する。</li> </ul>
軸受から異常音を発している	<ul style="list-style-type: none"> <li>軸受の摩耗・焼付き</li> <li>屋外で雨水が入り 又酸性ガス、ゴミが入ったとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新品と交換する。（フレーム一式となります）</li> <li>入らないカバーを種々最適なものを選んで付ける。</li> </ul>